大分合同新聞 2025年5月11日(日) 朝刊 6面

別府の共同温泉ピンチ

清掃担う人確保難しく

管理できず施設閉鎖も

【別府】別府市内の共同温泉で、清掃を担う人の確保が難しくなっている。市のアンケートでは、4割の施設が担い手不足に苦慮していると回答した。背景には運営に当たる組合員の減少や高齢化があるとみられる。管理ができず閉鎖する施設も出ており、関係者は「別府を象徴する文化が10年、20年先に失われてしまうかもしれない」と危機感を募らせている。

共同温泉は地元住民らの組合などが運営しており「ジモ泉」とも呼ばれる。市によると、2024年4月時点で市内に100カ所ある。

アンケートは昨年5～6月、持続可能な施設運営を検討する目的で実施。70施設から回答を得た。

調査では「困り事」として76%が「管理者の高齢化」を挙げ、40%が「清掃する人の確保」と答えた。「最も大きな支出」は清掃費が49%で最多。高齢化や組合員数の減少により43%は掃除を業者に委託しており、高額な清掃コストが運営の負担となっている実態が浮かんだ。

若草温泉（若草町）で役員を務める男性(65)は「多くの施設で運営が崩壊しつつあるのでは」と案じる。同温泉では昨年7月末、これまで委託していた清掃業者から「廃業した」と連絡があった。新たな引受先はなかなか見つからず、委託料を2倍に引き上げ契約してくれる業者を確保したという。

デッキブラシを使い、共同温泉のタイルを磨く清掃業者＝4月、別府市の若草温泉

行政による支援は限定的だ。市は施設の補修に充てられる補助金は設けているものの、清掃費などソフト面に関しては「あくまでも組合が主体となって対応するのが原則」との立場を取る。

問題解決の糸口として、市温泉課は「横のつながり」の構築を呼びかける。近隣の複数の施設が同じ業者に清掃を一括委託すれば、費用を安く抑えられる可能性もあり、施設間の交流を促進する意見交換会を開いている。

市内では京町温泉（京町）など複数の施設が運営に行き詰まり、近年、閉鎖や休業に追い込まれた。

NPO法人「別府八湯温泉道名人会」の花田潤也理事長(45)は「若者に共同温泉を身近に感じてもらい、引き継いでいく取り組みが必要だろう。ネーミングライツ（命名権）の付与といった企業との連携による運営の可能性も探るべきだ」と提言した。

（横田壱成）

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。

大分合同新聞
ワークシート

年　　組　　氏名

〔問①〕市が昨年５～６月に行ったアンケートの目的は何ですか。

持続可能な施設運営を検討する目的

〔問②〕「ネーミングライツ（命名権）の付与」とはどういう仕組みで、どのような効果があるのでしょうか。調べてみましょう。

解答例）　ネーミングライツは公共施設に企業名やブランド名を冠した愛称を付与する権利。企業は施設利用者へ認知度向上や広告宣伝効果を期待でき、自治体は有償としてネーミングライツ料を得ることで、施設の維持管理費を確保することができる

〔問③〕NPO法人の花田理事長は「若者に共同温泉を身近に感じてもらい～」と話していますが、どのような取り組みが効果的でしょうか。アイデアを書いてみましょう。
また、周りの人と意見交換してみましょう。

自由記述

©大分合同新聞社　教育目的以外の無断転載・複製および頒布は禁止します。